

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月21日実施)	総合評価(3月10日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	②児童生徒の卒業後の生活をより具体的にイメージできるよう、進路情報を提供する。	②学部、学年ごとに次のステージの生活や進路情報について情報発信を行う。	②本人や保護者のニーズに沿った情報提供ができたか。	②高等部三年保護者進路学習会(成年後見制度)を録画し、全校対象のGoogle Classroomに掲載して、お金に関する支援制度の情報提供を初めて行った。PTA進路学習会では様々な形態の事業所・企業より4名の講師を迎えて「就労について・長く働くために」のシンポジウムを行い、参加保護者20名から好評を得た。5月に福祉事業所合同説明会も開催(参加者54名)した。	②シンポジウム形式の進路学習会は継続したい。今後は保護者学習会の内容の共有方法を企画検討していきたい。福祉事業所合同説明会の開催は検討課題となっている。	②保護者アンケート:保護者のニーズに合った進路情報の提供を行っているかの項目でAB評価を合わせて88%で、R5年度の91%より少し評価が下がった。CS:進路は関心が高い。教員の企業研修も紹介すると良い。	②各学部に進路班の教員を配置できれば小中のつながり、中高のつながりの視点で情報共有を行える。福祉事業所合同説明会の開催は検討課題である。	②今年度工夫した内容や方法を継続する。皆で共有できるようGoogle Classroomへの掲載を今後検討する。福祉事業所合同説明会のより良い開催方法について検討する。	
4	・共生社会の実現に向け、地域活動との連携、協働による活動を開拓し、障がいのある子どもの理解を推進する。	①地域資源を活用した学習活動の充実を図る。	①地域資源を活用し、地域資源を活用した学習活動を広げる。	①各学部とも校外学習では、JR線、神奈中バス、駅周辺の商業施設を利用して段階的に経験の幅を広げていく学習ができた。高等部では清掃活動を通して交流した。(中原小学校6回、中原公民館1回)ららぽーと平塚店、平塚市役所、トヨタ平塚四之宮店で作品展に出展し多数来場した。アンケート回答数は少なかった。「ちよこっと湘南だより」で地域情報を発信した。特に、インクルーシブハブ湘南でのイベント企画では、本校が活用している支援グッズの紹介と感覚支援グッズを体験できるブース紹介や支援グッズ作成コーナーを設置し参加型企画とした。想定人数を上回り大変盛況で特別支援学校を知ってもらう良い機会となった。	①今年度の反省を次年度に引き継ぎ、看板表示の工夫等作品展会場の改善進め、来場者数を増やす。他校と共同開催の作品展示やインクルーシブハブ湘南のより良い取り組みについて意見交換を行い目的や内容について精査しながら、地域に向けて本校や特別支援教育の情報発信を今後も進める。	①CS:地域との連携に関して、学校がどんな取り組みをしているのかわかるように、今後も工夫して発信すると良い。公民館清掃や公民館祭りの作品展示で協力いただいている。今後教育施設としての役割も期待されており、学校と新しい活用をともに考えたい。	①地域資源を活用した体験的で学習活動を各学部ともに沿って計画的に実施できた。高等部では新たに小学校での清掃活動の取組も進めた。作品展では会場のアピールやアンケート内容の簡素化といった改善が課題である。	①今年度の取組を参考に、教科等のねらいをより明確にして、地域資源を活用した学習活動計画を立て、実施する。インクルーシブハブ湘南ではより良い取組となるように目的や内容を精査し、本校や特別支援教育の情報発信を今後も進めます。	
		②地域の学校との交流及び共同学習を広げる。	②各学部において「交流及び共同学習ガイド」を参考に、交流校とねらいを確認し計画、実践を行う。また、事前の打ち合わせを丁寧に行い、ねらいや位置づけについて共有して実施する。	②共同学習の視点を持ち、学校間交流が実施できたか。	②児童生徒が居住する地域の学校と居住地交流を実施した。(小学部27ケース・15校、中学部4ケース・3校)体育授業の交流(小)は教科のねらいも含み実施できた。音楽授業の交流(中)は生徒との関わりを楽しんで教科のねらいも達成した。中原中学校特別支援級との交流は中学生と協力してゲームを行い、同年代の生徒と一緒に楽しめた。高浜高校との交流は1回(6人)と昨年度より減少した。ボランティアは3月末時点で10名が延べ89回の活動を行う等、昨年度に比べて大幅に増加した。ボランティアの方が得意な内容と本校がお願いしたい内容に一部差がある場合もあった。	②引き続き「共同学習」のねらいを意識して計画する。中原中学校や高浜高校との交流はそれぞれ目的を明確にし、活動内容や生徒の様子を情報共有して進める。来年度もボランティアの募集を積極的に進めるが、活動に際しては事前に本校の見学や説明を丁寧に行う。	②CS:切れ目ない支援部会では社会参加への流れるような支援のためには多職種の連携と情報提供が課題で、保護者支援が本居地交流は、引き続き児童生徒が見通しを持ち、意欲的に活動できるよう相手校と充分打ち合わせをして実施する。	②引き続き「共同学習」のねらいを意識して計画する。中原中学校や高浜高校との交流はそれぞれ目的を明確にし、活動内容や生徒の様子を情報共有して進める。本校の生徒が安心して活動できる内容の検討も行う。ボランティアの募集を積極的に進め、事前説明を通して活用への理解を深める。	
5	・安心・安全な学校づくりの推進のため、危機管理意識を向上させるとともに、危機管理体制の確立を図る。	①教職員個々の危機管理意識を向上させるとともに、危機管理マニュアルの見直しを進める。	①危機発生時に有効活用できる各種マニュアルの見直し、作成を進める。名札着用の徹底をする。	①マニュアルの見直しと作成ができた。名札着用の徹底ができたか。	①スクールバスの運行経路沿いにある避難所を確認し、マップを作成、各号車に設置し、介助員に周知をした。薬の取り扱いに関する研修会を実施した。60名が参加、理解が深まったとの回答が得られた。また58名の職員から今後も継続してほしいとの回答も得た。安全な学校運営を行えるよう市販薬の取り扱いについて各学部の意見を取り入れながら検討しマニュアルの見直しを行った。今年度の訓練等の反省をもとに来年度の緊急時対応訓練、救急法講習会、児童生徒情報交換会等の計画準備ができた。預金利率の上昇による会計書類の作成方法の変更や領収書のコピーの追加について来年度に向けて修正をすることができ、マニュアルを活用する職員が増えた。名札の着用はある程度定着した。	①今後も避難場所の新設や変更等がないか確認していくながらマップの見直しを随時行っていく。	①CS:地域や行政と情報を交換し、具体的な事例や仕組みを共有確認すると良い。防災安全部会で連携を図りながら、地域防災訓練等を中学校小学校と実施できるとよい。	①危機管理の視点で各種のマニュアル、ガイドラインの見直しと改訂を昨年度に引き続いて実施した。アレルギーや発作対応等の研修を行い、職員へ周知することができた。全員が理解できるよう進めたい。	①今年度見えた各課題については、反省点を取りまとめて各校務グループや学部で検討し、改善点を次年度に引き継いで実施していく。老朽化した部分の確認と速やかな修繕、安全対策を施して学習環境を整える。
	・人権に配慮した指導支援に努め、組織的に不祥事の未然防止を図る。	②人権尊重の視点に立ち、児童生徒が安心して過ごせる環境づくりを推進する。	②さん付け呼称の徹底と人権に配慮した児童生徒への丁寧な言葉遣いを励行する。	②さん付け呼称や人権に配慮した丁寧な言葉遣いができる。	②肯定的な言葉遣いをそれぞれが意識して指導を行つたことで、おおむね生徒も落ち着いて学校生活を送ることができた。さん付け呼称についてはほぼ定着したが、丁寧な言葉づかいについては個人差があり完全に定着したとはいえないかった。1月に全職員向けに人権研修のフィードバックとワークショップを実施した。	②肯定的な言葉遣いについては、「いつでも・どこでも・誰とでも」(職員室で教員同士も)を心がけ、定着を図る。	②保護者アンケート:学校へ行くことを楽しみにしているかの項目であまり思わないが7%、思わないが3%で10%が楽しみでないとの結果だった。少数だが減らす手立てを考えていく。	②肯定的な言葉遣いなど人権を意識した関わりについて、今後も全校で共通認識を持つて取り組んでいく。人権尊重に関してはより意識を高める必要がある。	②引き続き肯定的な言葉遣いを中心と定着を図る。研修内容を自分ごと捉えられるよう工夫して開催する。人権に配慮した指導については、模範的な取組の紹介等を通して啓発する。